

荻野資料
イ 4
3153
C 5(1)



京都 東寺 所藏 文書目



弘福寺

川原

表上弘福寺領田畠流記

田壹伯伍拾捌町肆段壹伯貳拾壹步

陸田肆拾玖町柒段叁步

廣瀨郡大豆村田貳拾町玖段貳拾壹步

山邊郡石上村田貳拾捌町肆段壹伯肆拾陸步

葛木下郡成相村田壹町貳拾段柒拾貳步

高市郡寺邊田叁町叁段叁拾玖步

陸田壹拾壹町玖段壹伯貳步

内郡二見村陸田陸段

拾字
如也

河内國

若江郡田壹拾貳町陸段

壹伯肆拾步

山北月國

久世郡田壹拾町貳伯叁拾捌步

陸田叁拾柒町壹段貳伯陸拾壹步

尾張國

仲嶋郡田壹拾町肆段貳伯捌拾壹步

尔波郡田壹拾町

近江國

依智郡田壹拾壹町壹段叁拾陸步

伊香郡田壹拾町貳段貳伯貳拾捌步

美濃國

多藝郡田捌町

味蜂間郡田壹拾貳町

讚岐國

山田郡田貳拾町

和銅二年歲次己酉十月廿日正七位下守民部大録兼行陰陽曆博士伊美吉田主

從三位行中納言阿倍朝臣宿奈麻呂

正八位上守少史勳十等佐伯造豆嶋嶋

從三位行中納言兼行中務卿勳三等小野朝臣毛野

從六位下守大史佐伯直小龍龍

正四位下守中納言兼行神祇伯中臣朝臣巨萬呂

正八位下守大録船連大魚魚

正五位下守右中辨阿倍朝臣使

從五位下守右少辨賀毛朝臣 使

從五位上行治部少輔采女朝臣比良夫

從五位下民部大輔佐伯宿祢石湯湯

朱印三十餘捺名アトニレ印文ハイサカモ見テ其印ノ寸法
カネサシ尺ニテ凡貳寸トシユ 例ニヨルニ民部有印也

東寺藏

○世俗謄文 一巻

序末

于時寬治四年丁未歲秋八月十七日散班朝臣夫原為憲撰

丹波國印其一捺名

丹波國麻東寺傳法僧家

受紀郡大山庄田之狀合一町六段七十二步

一奈木三大山里南一大山田東去七段

二大山田東去八段 十六池後田一段七十二步

餘依衙去九月十一日麻狀令下却在地郡檢見焚毀

使亦即勘申狀云彼庄地之内置張注公田七坪三百

八步十九坪四段七十二步之外依實注寺田已了無有他

妨者能別來麻所載件坪尤寺也七也察之以餘

此一行幅寫

延喜十五年十月廿二日少月百回橋

守源朝臣

介尾張連

橋捺橋
大目物中
捺少目山

多之上
部有

妨

細川氏

眩

波伯部伯智書

元氣

細川氏

七月

白田山氏

樹

望

永正三

和州豊田春猶

三好氏

森

宣房

久

中御門宰相宣房

永和三年

東土

藤房公又致中御門家号

維日本國正平十年乙未歲次正月戊子廿九日丙辰吉日良辰直冬

忍_毛掛_毛畏_文天神地祇諸乃神等北辰斗二十八宿泰山府

君十二冥官別_{天波}我氏神正八幡大菩薩天滿大自在天神

等乃廣前_尔洗_天申_天申_佐項年之間天下擾亂民間互_三聊

惑_彼神社佛寺軍士乃為仁彼顛懸或彼君臣上下凶類

乃為仁抱愁_此討_此時義兵_七揚_天万人乃塗土炭_书故_年古_山宣月冥

慮_子因_レ茲自九州數_ケ國_书徑歷_天山陰仁移利山陽

与和洛陽仁入_是併_テ神_即佛陀乃擁護且頭礼朝祈父賽

願_望既滿_加と_旅信_伏乃志_切奈利_於焉_嚴親_將府_敵陳_仁坐_須

對_之天_一歩_か進_年古_冥顯_巨惻_心肝_碎加_如之_然則_只波_左

右前後乃自_末山_崖治_四討_年加_為奈_全逆_德書_思天_我加_為行

義_旗不_揚林_凡天帝釋_堅宰_地神_定天_照皇_之治_良年

義旗不揚林凡天帝釋堅宰地神定天照皇之治良年

就中

今上陛下。皇統之天。神蓋も侍給比宗

奉

勅命を被下之上。故光明寺禪儀乃表意尔任天。天下乃敬拜

救済也忠孝乃二お思尔非年。若此発願薄天政教尔有私。

彼冥顯我を可弁給。若此願堅固天。不椹彼神兵も加。速仁

凶嶺お台討之。法軍男夫多恙之。華夷志。靜謐仁。屬

遠近鎮仁。太平を歌。半。此由以モ。諸仁。聞食納給。申。酒。

正平十年正月廿九日

正五位下左兵衛佐源朝直冬

時のもれ命よ。法乃。の世のため
あゝぬ。りも。あ。せは



北朝文和四年未和

右直冬ノ願文堅四寸許ノ斐紙ニ墨タリ古色當時ノモノナルニ

うららみのの洞やの 倒ぬハ

てんのもろの 見くろのちの 後

宇多

くみ流しすけ 東寺 ぶし 宮

いよらう 祈 せ 込 ちみ と め は

よ 依 ち 廳 れ ら ん ら の え ん の

寺 き る 進 ち あ ら わ ぬ は

へちん^別しそのや^{御心得}...

あき^{建武}...

もん^{建武}ふお年^{建武}...

ふちやのちの女

極

車^車古^古文^文存^存經^經... 出^出 隻^隻 候^候 自^自書^書云^云...

敬白

再^再拜^拜... 大^大眾^眾起^起請^請文^文...

右^右え^え者^者大^大や^山の^山名^庄...

く^くま^摸ま^毛ま^ま... 西^西た^た花^花...

く^くの^のら^らと^とこ^こら^らあ^あく^くら^らこ^これ^是...

大^大師^師の^の儀^儀... 此^此...

日^日本^本... 此^此...

起法之始如神

らうはるのりてあ

想ふ〇〇
志ん〇〇
道正〇〇

再拜

たてやき記請

右 たいやう 弥 ちい 地 百 性 庄 下
其 ちい 地 百 性 庄 下
ちい 地 下 性 庄 下
ちい 地 下 性 庄 下

のりんよこら

み海因坊 収 納 分 地 下

さう 用 けられん 要 にかし

此 音カ 用 けられん 房

を 得 けられん 房

う 用 けられん 房

古脚 用 けられん 房

まの 用 けられん 房

き 用 けられん 房

享和元年七月三日

け申かすのり

合五石打ハ一口廿日

右件かすにありあはり
すれはれに三ヶ年
たすんのかすに
すいせん

に

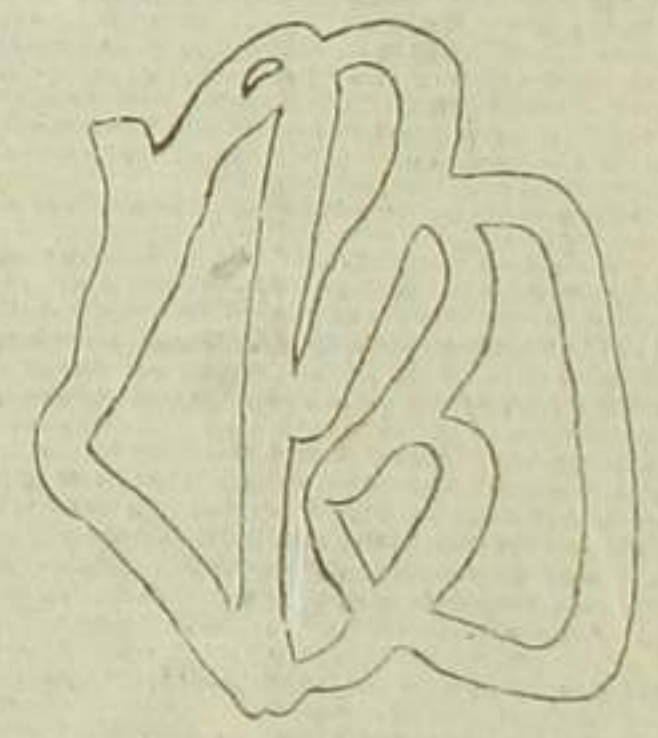
転入のあやまり
すかすのり
此より知れ

正丁三年卯月廿一日

三糸まら

右筆賣状文書 東寺打藏 文字旧観ニ従フ 今京三條ニ筆座町アリ

東寺領ノ卷所下司職也
尸職ノ諱ハカナズアリ
寫出



定補

卷所下司職事

六郎宗安

右以人所補彼職也任先例
後其少可全公平也
執違以件

文中貳年八月日

賣渡 社領田事

合卷取者 字右海

在山城國此坪郡内角神田里

直錢三十貫請取了

右斗田者藤系氏子部法華住持該在忌日之祈僧尔西所護賜之
照今尔西依余命不識公心為奉訪彼佛菩薩修造之祈
鉢三十貫限永代作年僧隆每前賣渡也然而隆每依事
尔西弟子雖并直猶子部法華經讀誦又忌日可勤
其也仍為厚日少法相副本公驗可賣渡也以解如件

文治三年三月十九日

僧

印

此職ノ神位杖
トシテ出セリ

東寺科卷所
右件下司職志下司職志
見きんんの下司志下司職志
ちりちりわすところ志
物は何ぬ不孝の志
こころの志
あひまてかめい
子等此ちるいらん
ゆつりわすところ志
物は何ぬ不孝の志
こころの志
あひまてかめい
子等此ちるいらん

貞治六丁未
ちやちよ十月廿七日

西 西
ひのせり

民部少官
右早施入東寺布勢内親王庄
額立田寺事

- 一所 伊勢国大田庄
- 在 飯野多氣郡
- 一所 攝津国垂水庄
- 在 豊後郡中條 條
- 一所 越前国高向奉庄

一所同國廿赫庄

右被太政官去十一月廿七日符傳被

大納言正之位廿勝原朝臣國人宣

傳奉奉 勅伴、垂水之庄、額土田

廿寺、見、強、入、東、寺、者、有、見、系、知

依、宣、行、之、符、到、奉、行

從五位下、所、輔、高、階、直、人、遠、成

從六位下、行、廿、錄、奉、守、氏、統

弘仁三年十二月十九日

後身 秋田并屋敷事

東南神田里廿一坪云傳字右傳

北小路室所居一所

右傳田なるひにや きハひは志んや川かきうんのとすらなるか志ん
をちやうき 痛子 道 妙坊 相傳
をかきりて 煩 けんらを あひ 副 依
こはとつあまのわらひあふち守りて 依

弘長 ちやうくわんおん十月十日

ちやうくわんおん
あ

尊氏ノ判トミ甚大キク書タリ

依之地位濃田別宗頼宗

預越中田中保惣願半分後因依味庄卷拾貳分此地賦事

為忠印之矣所亦所之者塩治丸大夫判友高貞死不可致

狀為伴

建武三年十二月廿四

即廟

昭月多同院之庭崎前事月之十日行心祈禱求世之
結新也以和田對了書其作之のにお能成中い台下也其法之

十二月十日

年致法中ノ度

例ニヨルニカク有(手)
申進三區買田富三卷事

右京三條三坊屋正六位上朝原宿祢有岑解

合貳段二百八十步

拾束

四至 限東河山 限南河 直福樹
限北山 限西山河

在山城國葛野郡上林野小野村十三条小野田東里十

三坪北山本

右田畠已私地也而今為成公事直与其實右

三條四坊屋前豐後大目從六位上大奈公宿祢相益后

同姓行康限永年所与賣如件仍為後日公驗賣買

兩人并保證乃祢録署各立券既畢之以解

兼平二年十二月三日朝原宿祢有岑

買人大秦公宿祢行康

上件有岑等之地於見直所与治行
康充在實仍保證乃祢加署

秦安則

秦實行

秦康城

六人部春平

高橋秀仁

件田畠直稻依負請納已了

朝原宿祢有岑

字伴四
後フ

△大中臣氏女讓玉熊丸物系

山城 乃此 國 正 桂 乃此 大中

とみれ氏女さ相 侍 乃此 乃此 乃此

とみれ氏女さ相 侍 乃此 乃此 乃此

とみれ氏女さ相 侍 乃此 乃此 乃此

とみれ氏女さ相 侍 乃此 乃此 乃此

とみれ氏女さ相 侍 乃此 乃此 乃此

とみれ氏女さ相 侍 乃此 乃此 乃此

とみれ氏女さ相 侍 乃此 乃此 乃此

とみれ氏女さ相 侍 乃此 乃此 乃此

とみれ氏女さ相 侍 乃此 乃此 乃此

心中之何人二月八日

杉原有子

此女判

請取申

社里廿六凌田貳及本役分事

合志貫文者

右為去年分所納申如件

寬正貳年二月廿二日

東寺雜堂

凌家雜堂

知家



左京五條三坊屋泰忌寸岑吉解申進賣白立券文事

合肆段

四至

在十三條小野田東里廿五坪
限東谷川 限南山
限西田尻山 限北岸

直稻百束

此見

右白田元是岑吉之故親父成繼之私地而今為成公事充見
直与賣右京三條四坊屋前豐後大目從六位上大茶之石
祢相益后同姓行康限永年一所与賣如件仍為
後日公驗賣買兩人共保證乃祢銀署名立券既畢
之以解

延喜玖年深月拾深日泰忌寸岑吉

相知男同姓常身

買人大秦公宿祢行康

上件岑吉等之祖地於見直所与沽行康尤有
實仍保證乃祢加署

秦忌寸吉道

從八位上高橋朝臣廣主

從八位上秦忌寸奥吉

大學寮掌尾張連全吉

從七位六人部連春岑

申請常地畠

左京五條三坊屋秦忌寸岑吉等解
直稻事合佰束
右秦岑吉等沽進常地畠十三条小野田東里廿五坪直

從買人大秦行康手依直所請如件以解

延喜玖年壬二漆月拾柒日秦忌寸岑吉
喜字

男表示忌寸常身

保證

秦忌寸吉道

從八位上高橋朝臣廣主

從八位秦忌寸奥吉

大學寮掌尾張連全吉

從七位上六人部連春岑

然屋色中... 三村... 押... 中... 去九月... 村... 内郡... 友... 之... 亦... 予...

永正十一年
後十月廿七日

因... 判...

寺... 公... 年... 心... 中...

席院殿廿三年... 御佛... 用脚...

合... 拾... 量... 文...

右... 為... 寺... 東... 寺... 分... 祈... 請... 取... 申... 之... 狀... 狀... 件...

永享十二年四月十三日... 願... 法... 印... 覺... 壽...

奉... 寫... 托... 於... 東... 寺... 西... 院... 佛... 事... 祈... 是... 奉...

合... 貳... 拾... 貫... 之... 志...

右... 件... 祈... 是... 志... 於... 己... 志... 雖... 為... 十... 月... 十... 六... 日... 祖... 師... 就... 獲... 并... 之... 寺... 志... 是... 法... 寺... 所... 捐... 金... 之... 狀... 志... 點... 二... 每... 年... 十... 月... 十... 七... 日... 為... 願... 奉... 奉... 却... 之... 以... 祈... 下... 寄... 進... 此... 件...

應... 永... 正... 二... 年... 乙... 十... 月... 十... 七... 日... 推... 大... 僧... 都... 行... 賢...



永代賣渡中田地地畝分

合本所修老字号在在

而姓職后ハル文モ宅アリキ

右件ノ地々々相のりすし原方お借し租賦より梅小路江岸方より并西度橋
之部太郎方人賣渡し之地之陸地依有要利手流し賣渡を租割並結本費
之部方西度橋押除の方新に賣渡中地実正之仍不右之察六斗并八斗
名目職ノ建信也是所或斗或并斗八斗合定以外他職分五斗五斗并八斗
毎年注懐急上早換て在く付知法之り言い百一おけ下地遠札出申す
法人と共々之有きもて申細字也法若角中若くお公方根堅之有
ソ飛科志之河内赤赤永代賣券力此也件

七享二年七月日

賣主梅小路

買主西度橋

法人三郎左衛門

後家花中

西米田 用

九佐田貳段

二條四枚田里廿二芒木田貳段貳百肆拾四步

原田十一 廿一葦原田貳段 廿三久刀田貳段

廿四谷上田壹段貳百拾陸步

六社邊里六芒 五肆 步

右分獨條一島野里 步

三島野田貳段參百伍拾貳步

四島野田肆段百陸拾貳步

五島野田肆段貳百肆拾步

九雜利田參段 十雜利田 段

一 地捌町涼段貳百肆拾步

白田地壹町參段貳百肆拾步 栗林壹町 山地肆町

東限川 南限路 西限郡老丹波直秀良地北限岑

白地壹町五段

四至 東限治田 西限治田

南限山 北限治田

在五布居里

白地肆段

四至 東限治田 西限治田

南限白田 北限治田

在五布居里一丈田畠

白地貳段

四至 東限治田 西限公田

南限大村地 北限公田

在六社邊里六布田畠

白地叁段

四至 東限公田 西限田

南限谷 北限田前

在木前鄉松部村

五間板倉壹宇
板倉壹宇

右得左京三條一坊戶主故典某元正六位上安倍朝臣基尚戶口同姓忠材辭狀備件水陸田故親父基尚所領掌親田等也而今為充彼國周料請價直延喜錢貳拾捌貫文賣陽成院判官代散位正六位上國不覓伊美吉

吉宗既望請依式欲立券文者 鄉長依辭狀加復勘所陳有實仍勒賣買 兩人并保證署名等立券文如件以解
延喜十七年四月廿七日
鄉長丹波直永古

件庄施入我寺僧信遠大德讀經所

延長五年十月十日本寺僧尋常

賣人 菅 孫安信
相賣後五位下惟吉宿禰
買人 陽成院判官散位正六位上國

忠找 泚子 善吉宗

保證人

散位正六位下佐伯宿禰 氏雄
從八位下丹波 直
從八位上佐伯 宿禰 氏直
麻手氣 神祝部 大危

郡判 依山寛子名

立券文記此
券文天曆六年九月廿日

檢校 正六位上物部首

檢校 從七位上許知

檢校 從七位上丹波直

擬大領 從七位上物部首真助

擬大領 從八位上丹波

擬大領 從八位上丹波直

擬大領 從八位上物部

擬大領 右近衛佐伯宿禰

擬大領 右近衛物部

擬主帳 從七位下丹波直常直

擬主帳 物部首

此の印ハ世外ノ古文書ニモナリ見エタリミナ年ニテ書タリ
天曆六年九月廿日 依山寛子名 後ヨリ書カレタリ

前 前朝寺在坊時安堵名分案 意以通此取ぬと案系中法以領し時今分也
七条院内領十七条事

山城正上桂庄 以同國桂東庄内北方相傳之

同國河内庄 同國庭庄 大和國檜牧庄

同國安堵庄 河内國美濃和音攝津國伊庄 君ハ隆院寺領 同可有寺官領

同國小杉庄 伊勢國野儀道庄 同國錦嶋市尉 官

同國吉津市尉 近江國大國庄 美濃國二分寺

丹波國田能庄 淡路國菅原庄 肥後國小野新庄

筑後國殖木庄

以近江_宮元身_宮之尾新_宮 肥後_宮神倉_宮相傳

右莊之可有_二御管領_一之由

春宮令旨所_一之_二以_三令旨_四可_五令_六淺_七智_八回_九過_十宮_{十一}給_{十二}仍_{十三}執_{十四}達_{十五}如_{十六}仰

正和二年七月三日

亮判

栗田口少將殿

△官僧正坊殿被_二鎌_三峯_四僧_五正_六快_七業

讓渡

山城國上桂庄

右此所 七條院修明院回過入道親王愚亮

四代相傳之地也仍故親王_二讓_三所_四等_五相_六割_七之_八令_九進_十傳

且彼_一所_二亦_三可_四傳_五訪_六申_七一_八方_九令_十馮_{十一}申_{十二}一_{十三}間_{十四}女_{十五}所

讓_一申_二也_三御_四所_五存_六不_七可_八有_九信_十意_{十一}然_{十二}也_{十三}亦_{十四}代_{十五}更_{十六}不_{十七}可

令_一相_二生_三之_四狀_五如_六仰 元亨二年二月十日 徐惠在判

欽_一此_二院_三法_四中_五所_六房

△ 奉旨正德二位公 形 故事

德波

山城國上桂庄

存身名 者七條院御道殿内本庄前通山七十七
隨一也仍割羊繼院之所令讓与御房殿也
弟前有他妨但 後字多院無故被寄^寄東寺借借
申云 依妻之御所^所有餘早任道理被
申達可被令相傳仍德与^与伏女^女件

曆應四年三月廿二日

後雅

在判

廳宣 留守所

可為庄領太山庄四至門作田事

右件田停心云民之妨可為庄領之狀所宣件
宣義知依件行定以宣

永正四年二月廿九

右兵衛佐兼大炊後系知長 安

補任 東寺置大工職事

養永久宗

太以人補任彼職宜去隨恒例除村之寺役若仍補任此件

寛正三年七月七日代譯聰

別當權大信部判
河理別當權大信部判

進上 四丈給

右於寺政所此件
康和五年七月廿日內人太和直左

何口之

東寺川合大園庄月解申法奈了職事

法被殊任解(四)停止迄能持保宜公庄却又他人耕此下種後(三)月廿日
及播殖期芳古他立田重押前年本庄田口町七反以親似不致并此派
行不若少為悲之状在寺中施入庄田多氣即十五条三是前里十三塚

另其
本寺
名三冬字
カケリ

一町北三條一町一
副進本寺印下又賴季結解
右件孫(三)部他庄田每年友物致未定仍從去年(八)月廿日者(三)于今年
二月廿日可蘇滿宜知且本庄田法(三)可耕(三)他雖加作(三)事(三)引(三)俄
耕(三)遠(三)期(三)之(三)下(三)種(三)之(三)上(三)重(三)押(三)時(三)能(三)致(三)妨(三)前(三)道(三)止(三)音(三)上(三)此(三)件(三)也
法恩載任存寺下丈者此停止寺將作(三)此(三)之(三)事(三)令(三)安(三)官(三)物(三)本(三)進
兼任(三)云(三)元(三)文(三)令(三)耕(三)作(三)播(三)殖(三)矣(三)以(三)解

應德二年五月十四日庄司信因順

借請申御和奉米

合伍斗共

右件米以来秋時加伍抱利可亦進但過八月若加每月和所
亦進仍為後月所估注可狀以解

永萬二年四月十日

大女

中原代子

此の日はタケヒ文書六抱ト懸ニ書タリ

無字寶篋經

大平三年四月十日

公薦

ト云

造車寺印

東寺放返抄

武成國

掛納封戸調庸雜物等之車

嘉加保戴年新

調庸布式百陸拾又壹丈肆尺

中男紙柄百戴拾張

封丁肆人

永長元承徳元武康和元武冬肆年折色同日前

右封祖教

花柳箇年折下是持納其件 故面抄
康和冬年肆月日 却維那法下判

中印

列南控大信却
 權大信却
 河國智法師判
 上座 大法師判
 寺主 大法師判

佑却 古傳新願田事

今半芒 在右京 朱雀ヨリハ西 朱雀面ヨリ南芒

右件地老丹治氏女之古傳之而依有直要用一札副本卷文卷通見
 涉法費文限永代亦之佑却干法系未去實正之古為後全ハ子可有
 他坊之狀如件仍為白後之龜鏡立形表法却ハ解ス

寛元五年 十月二十日 本主丹治氏女御

紀伊

那賀郡司解申百姓常地賣買墾田並野地池山等之卷文事

合式拾法回冬後陸拾費並在山前之伯村大縁地并秋奈村池田木

墾田一町三反六十貫荒

野地十町

四至 东至道平田麻呂家垣并川原賀都伎池 西至山路
 南至山邊 北至紀伊真公更極

黑谷池山十町

已至 东至松尾池 西至法師岑
 南至山路 北至横岑

墾田二町

池地三町反
 林地八反 无本

口至 东至山道

西至坂

南至文部氏真日姓木道春十縹麻等地

北至山道

久徳実景三工

右得山前七解你得左京旧条一坊屋從七位下女倍約房上陳狀你件
墾田并地池山お々以美和跡於賣文元價並第地賣為右京三條口坊屋
從八位下紀幹明成后同姓孫氏承既訖重法依式立券文若仍劫之
中送者郡司及勅旨有失惜仍勒賣買兩人并記人署名造券一通
申送如件以解

美和十二年十二月五日

賣人根傳下女倍約房上
證刀称

式部位子少初位上堅部造廣根

大前心寸實豊

大春苗縹麻

文部已寸佐知真

曆今字

上件第地券文郡勅知実
大順加從八位上長我孫繩主 主此外少初位下○○○
少順加從八位下長公 廣雄

彌七田苗連石成
田順 文部守

國判 買人料

守從五位下王

正六位上行分紀幹春之

掾從七位下中臣九躬臣

大目從八位上廣井岩祿

正七位下行掾少目息長吉人

少目從八位下大我岩祿

右那加郡印 馬夕持タリ

東寺の... 仙二等の... 記あり

一西子の... 佛此... 長... 一丈六尺... 箱... 寺の分

一東... 阿... 長... 一丈二尺... 箱... 蓮花... 志き
法座... 佛光... 此代... 一... 二... 六十七費
又の... あり

一... 此手... 拾六費...
已上... 敷二... 此... 記... 費

左永北九年六月十九日

佛原院
轉

○ 敬前国寺に奉加

符尾

豊原寺

記百奉指人 奉拾... 又

吉谷寺

大惣持寺

本寺

織田

念大神宮寺

以下... 敷... 天至

應神寺

符中

新善光寺

本寺

依... 一峯寺

長崎

王峯寺

本寺

法恩寺

二カ山

宝積寺

本寺

田谷寺

真光寺

本寺

岸水寺

八重巻寺

本寺

大瀧寺

鳥山寺

本寺

朝日寺

三箇

瀧谷寺

本寺

本寺

今津 神宮護國寺

静教寺

本寺

楊嚴寺

波着寺

本寺

大善寺

^{本堂}長福寺 | | | |
 燈臺寺 | | | |
^{本堂}不動寺 | | | |
^{本堂}神宮寺 | | | |
 阿旃陀山 | | | |
 安養寺 | | | |
^{本堂}善行院 | | | |
^{深谷}安樂寺 | | | |
^{深谷}十輪院 | | | |
 寶瓶院 | | | |
 大寶院 | | | |
^敦東前寺 | | | |

千部寺 | | | |
 一王寺 | | | |
^大寶珠院 | | | |
 相應寺 | | | |
 賢達寺 | | | |
 吉水寺 | | | |
^{池田}朽飯寺 | | | |
^福成寺 | | | |
 寂勝神護寺 | | | |
 寶光寺 | | | |
^敦寶光寺 | | | |
^敦養良泉寺 | | | |

^敦清水寺 | | | |
 永善寺 | | | |
 光明寺 | | | |

^敦成福寺 | | | |
 心蓮寺 | | | |

已上人數一千十九人

奉加錢百二十三貫五百文

文治二年己九月日

大勸進



東寺御奉行御坊

○ 珍皇寺司等解 申請 本寺政所裁事
 請持蒙 恩裁任道理被裁定寺領田畠為感神
 院所司等号

四至内押成官符卷擬領掌不安狀

右謹檢故實件玆皇寺者太室以往山代淡海為鎮護國家
利益禱祭民所草創也隨為東寺之末寺年序久積經
四百余歲而去寬平二年又天德四年崇塔僧房并
寶藏等燒亡之次公驗流記帳悉燒失爰寺家請
先函部置帳勘判之日勘洛使粟田茂明高向福
忠等勘進之面帳以此為公驗領掌敢無他妨而去
年感神院所司等注取三条以南之田白島奏聞公
家之日事不問被成下可為社領之官符然則社
如支度押領田白島其地子寺家大愁莫過於
斯矣望請本寺政所同心裁被美天開停心感神
院之橫妨任道理如奉被成玆皇寺之所領者將作

徵徵

息裁之貴仍勒狀以解

延久三年十月八日都維那法師度等

寺主大法師圓能
上座大法師美明
別當大法師朝明

弘福寺三細等解申請近江守殿

請被殊蒙恩裁與判寺領四箇庄每年見作

免判殘坪加地子改別一斗狀
甲加久郡 椋部庄 水庄庄
愛智郡庄 伊香郡庄

加筆之件書件必以墨迹
在地郡司承知此係先例可以後件

裁事

右件庄者皆本願施入不輸租田也而臨末代一門作
不幾僅免判之殘坪者作人等不隨所堪者也望
請蒙与判一徹納件加地子一支寺用仍記事
由一解又徵字

延久二年十月日

都維那法師 覺功
寺主 大法師 實
上座 大法師 親助

○ 賣渡申 松尾標谷社御田代職事

合志殿小若

在赤八东八西ノシケ西八標谷社小比中詔南八七条限
字号三井田但田地五限一内後西詔南八
土頁十三合井仁志石之斗定

太田地之七条八尾之八条改 為標谷社造新新新新新新新
之賣渡事者此下之託託託託託託託託託託託託託託託託
檢式賣文仁限永代赤七北一地方賣渡中不實定一托託田地透
丸煩中少存在者任寄を此之旨一托公方換及此所法下有法罪
糾以又之無誤小大明御田討若 仍為後代寄を衆并立不礼
加判形賣渡中不之快也件

天文二年十二月廿八日

賣渡松尾十穀

芝林

法人小尾与八
重政

新開

○船木庄新開事为上

上吉第一堅田庄有被後急之候之可致処罪科
名之取觸之也仍執在如使
康正貳

六月晦

月臨院代

光

印

日下亮次

信

非主

信

印
印陰文
章不明

○

注定

私領田粉失状事

合武川者

平野田
泰斗代

在山城國紀伊郡甬神田里廿六坪三反之内南寄二反之

右件田者久米三光^カ先祖相傳之私領之領當年久^シ而

去寛喜二年十二月廿四日夜燒共彼田本券并次第相兼

讓状等之證文等燒失畢然間為備向後^ニ鏡立

且粉夫^粉處之若後代件文出等有^トお持来者速^ニ相

放火人為被行^レ罪科如^レ此注^上立^上之^レ敵以不可有異儀

寛喜三年六月十九日

沙弥 當

化紀ノ謠トシユ
上文紀伊郡ノ紀
トナケリ

沙旂蓮如也

氏新持守 磯部未友也

海未時

何

化國景

春

○かりこしふりせむの事

合指伍費又也

たぐんごのりせるハ毎日する列さみつのりんたかあかけすいかくしらし
る一但雙おた糸の石田や志ろか里の三王の不一段のけんんをりれ
たきも一んまいりのふをき又とてあくとりつ
仍あ後るいしは記さしぬめ件
嘉祿三年三月

時貞氏

○遠江國三代清起請三社領事
合

一三代清起請地

原田庄

山隱金對院

飯岡庄

蓮共半王院

曾賀庄

圓勝寺

上西郷

運源院

相白庄

長編堂

山名庄

熊野山

蓮花日院

一三社領地

比岐社

上加美氏

加美社

下加美氏

右記文如件

永永二年二月七

江戶屋堂中原美

○ゆつり書文まづの巻込事
人云ふ所也

在ハ條朱花

右巻下七差相女お侍所秘傳也而志さいあるより南江河津港に在奉子孫
をあいさして承継を承継せしめりゆつり付てまゐる所也又巻のさまはあり
へりゆつりゆつり状也

正申三年三月十六日

差相め申
お共良申也

○祐清失

- 一 為一正 くら
- 一 大光ちつみり
- 一 つを 矢林
- 一 小大刀
- 一 打刀名物 古り一丈
- 一 小丸ろま

以上
月中間の物

大刀一振り
一かゝる

寛三三

四ノ吉字

十二月廿

拾陸

三十四

新島

法大

比多入

今

衡代

○蒙亦標

二年

以累代之證本書區點立了道順
元亨二年戊五月廿七日於西南院

二年

康永三年五月廿七日於西南院

貞和元年五月廿七日於西南院

貞和元年五月廿七日於西南院

直

仁壽四年古文書

○在田郡司解

申直

田并取地白田地等之券文事

合地伍町叁段佰肆拾肆步

物價直相叁仟柒拾肆束

新田壘所佰肆拾肆步

直相貳仟貳佰貳拾肆束

一所和佐村七段二百十六步

直相六百八束

門田五段

四至

東至百姓口分田
西至百姓口分田

南至細道
北至藪原

直相四百束

阿弥施道田百廿四步

四至

東至竹原
西至竹原

南至白田
北至白田

直相七十九束

垣内播田西圭一段

四至

東至百姓口分田
西至百姓口分田

南至白田
北至白田

直相十八束

大町南圭一段

四至

東至百姓口分田
西至百姓口分田

南至白田
北至白田

直相八十束

一所舟生村九段七十二步

直相

荒木田二段二百十六步

四至

南至白田
北至白田

直相十八束

多

陸東段別八十束

直相十八束

中荒木田二百十六步

高苗代田二段

白田二段

北野班原田二段

一所大豆田村野田九段二百六十步

直稻四百八十束段別五十束

一坪一段 同村野田

一坪三段百廿步

一坪一段二百廿一步

一坪三段二百廿五步

一所同村掘原

四至

東至百姓口分

西至百姓口分

四至

東至紀長常島

西至班

南

北至百姓口分

至大津

至百姓口分

至百姓口分

直稻

直稻百六十束

直稻百六十束

直稻百六十束

直稻百六十束

直稻百六十束

直稻百六十束

直稻百六十束

直稻百六十束

直稻百六十束

直稻百六十束

直稻百六十束

泉地一町三段 在吉備倉

一町三段 在丹生村

一町一段 在野村

畠一町 在吉備野小嶋村

直稻伍佰伍拾束

東至百姓口分

西至百姓口分

東至古恒并栗栖林

西至古恒并栗栖林

南

北至百姓口分

南至紀長常島

北至野田大津

南至神奴知嶋地

北至大河

直稻百五十束 別段五十束

直稻四百束 段別卅束

直稻四百束 段別卅束

直稻四百束 段別卅束

直稻四百束 段別卅束

直稻四百束 段別卅束

直稻四百束 段別卅束

直稻四百束 段別卅束

直稻四百束 段別卅束

直稻四百束 段別卅束

直稻四百束 段別卅束

直稻四百束 段別卅束

直稻四百束 段別卅束

直稻四百束 段別卅束

直稻四百束 段別卅束

直稻四百束 段別卅束

直稻四百束 段別卅束

直稻四百束 段別卅束

直稻四百束 段別卅束

右得擬大願紀宿禰真身辨狀併已新田并家地白田地等依
式常地與古推大僧都傳燈大法師位真濟大德既訖若依
解狀郡加勅察所申有實仍為後勒賣買兩人署名立
券文如件

南河外從從上祀宿禰真身

曹字

買人新

仁壽四年六月七日庄帳外少初位下大海連

父從六位上紀宿祢 子本
紀宿祢 貞男
證可祢紀直 成人
紀朝臣 今磨

副擬大願外正八位下 紀朝臣
擬少願 无位 紀朝臣

之張

國利參通

買人新

守從五位下 紀朝臣 高

正六位上行 振富麻真

正六位上行 介紀朝臣

從六位上 勳八等行 権保伴宿祢
從七位上行 大目道守臣
從七位下行 女目 難破連

右仁壽四年 文書 伊都即印 八拾許 捺タリ
左少磨 滅ヤリ 守云ヨリ 己下 紀伊口印ヲ
控ハカリ 捺タリ

○ 額取三氏 拾 久美 三三三

差レ才三ノ 國書

文永五年四月十八日申請大判事殿

法曹末学 彈正女忠 中原職宗

幸職 本一校 子

○文選 卷第廿六 三毛ノナリ
皇書 元徳二曆仲春於庄殿寺書寫年

○注好選抄 三毛

下卷 皇書 可祕藏 傳領大法師位寫年

仁平二年八月一日於老明山北谷書了

右東寺所藏文書寫之年
高僧

四
中
五
五

五

五
五
五

